

開放弦

木村怜雄

張り詰めた糸の音が微かに響く

暗い中まぶしい光が照らす舞台の上で

触れることなく感じるその音に

表情が灯り

安らぎを語りながら美しさを秘める

だけど、よく耳を澄ましてみると

心の鼓動とその音は

僅かに齟齬をきたしている

拍子が外れ、汗も滲み

観客の視線が一つに集まる

無言の言葉が空気を揺らす中

呼吸を整え、糸を緩める

その静寂の中でもう一度

糸が全てを紡ぎ出す